

# スキマタイムズ

もっとお互いを理解するための場や時間を

✧ 日本自立生活センター自立支援事業所 2023年4月25日発行 第145号



## 5/2(火) 13:00-15:00

場所：油小路事務所 担当：宇田・野瀬

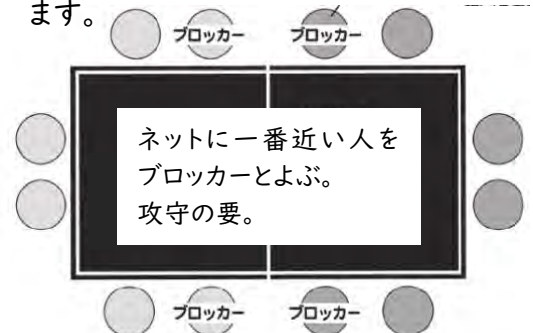
大好評につき、第2回！！  
今後は第1火曜に毎月出来ればと思っています。  
今回は前回よりもルールを追加して、皆さんと楽しめればと思っています。  
目指せ！大会出場！！（野瀬）

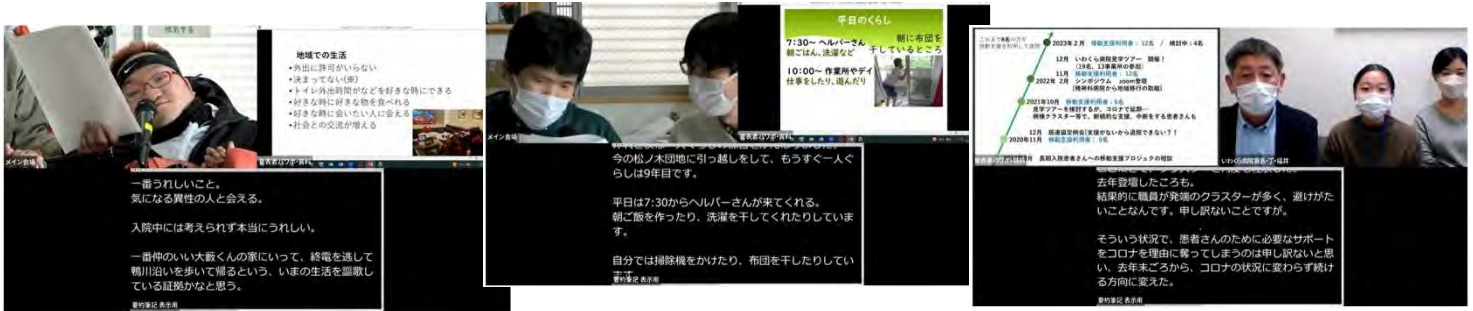
楽しかったです♪  
またやりたいです！（松本裕子）



### 卓球バレーって…？

車いすの人は車いすで、歩ける人は椅子に座ってスタンバイ。（椅子からお尻を浮かしたら反則）  
かまぼこ板のような長方形の板がラケット。通常より高く上げたネットの下を通るようにボールを転がして打ち合います。





## 障害のある子どもたちの今とこれから【暮らし、支援、教育】

第2回 2023年2月28日(火)

成人期の暮らし方や支援、福祉サービス(地域生活や入所施設・病院)のあり方



シンポジウム二日目(2月28日)は、「成人期の暮らしや支援、福祉サービス(地域生活や入所施設・病院のあり方)」というテーマでした。

支援学校に通う息子を母親が殺めたという、京都市内で2年前に起きた事件は、高校卒業後の見通しが立たなかったということも大きな一因だったと言われています。卒業後に通う通所施設が見つからず、断られたその日の晩、息子を手にかけたと言われています。

学齢期はまがりなりにも学校や放課後デイなどがありますが、高等部卒業後は社会的支援が希薄になります。デイに通えたとしても、16時すぎくらいに帰宅することになります。親からすれば介護負担が増える心配もあります。

一方で、成人期は、ヘルパー支援は充実します。少なくとも京都市では、24時間介護含めて、ある程度必要な人に必要な分の支給決定が出されるようになってきています。けれども、諸事情でヘルパー支援がうまく活用できないため、家族が障害のある子を地域で支え続けることが困難になることもしばしばあります(もちろん地域で支える支援者・ヘルパーの不足という背景もあります)。

国連からは、日本政府に対する勧告で「脱施設」を計画的に進めることが要請されていますが、残念ながら、実態はまだ施設入所を選択せざるをえない人が多い状況です。施設からの地域移行もなかなか進みません。

どのようにしてこの状況を変えていくか、それが今回の大きなテーマでした。

これまでは、自立生活運動は、親や施設、病院と対立しがちで、なかなか共通の目標に向かって協力して取り組んでいくことはできてこれませんでした。でも、できるなら障害のあるすべての人たちが地域で暮らし続けられるようになってほしいという思い、これは共通の思いのほうです。近年

ようやく、自立生活運動と入所施設それぞれの関係者が対話しながら共通目標に向かって取り組んでいく兆しも現れてきました。この国際障害者年連続シンポジウムの取り組みもその大きなきっかけとなっています。

今回のシンポジウムでは、白川学園という全国でも二番目に古い知的障害者の入所施設の方と、古くから開放医療を志しているいわくら病院の方に、お話していただくことができました。脱施設を進めるためには、施設や病院と、地域の支援がなければならないといけません。今後とも関係者と一緒に、一緒に障害者の地域生活の充実に向けて活動していきたいと思います。

でも、なんとといっても、報告の中で圧巻だったのは、やはり障害当事者たちの報告でした。

野瀬さんは、つい3年前まで、長期療養病棟の病院の中で、ベッドに寝かされきり、そして絶飲食を強いられていました。今は、がっつりうまいものを食べ、大声で人前で歌い、ICT(情報通信技術)を駆使し、またたくさんの人と出会い、恋愛の苦渋・醍醐味を享受しています。

天野さんは、家庭事情もあり、それこそ白川学園に長期入所となりそうでした。でも、支援者の廣川さんもがんばり、みんなで協力して、ヘルパー支援や自立体験室を活用して、現在、支援付きの自立生活をエンジョイしています。

ここに書き切れませんが、お一人お一人の発表が、とても重みがありました。

YouTube 動画にアップしています。チャプター分けして興味関心のあるところから見られるようにしていますので、ぜひ、アクセスして、まずどなたかお一人の発表でもいいですので、見ていただけたら幸いです。どうぞよろしくお祈りします。

ワークスで名刺を新しくしませんか？

お試し価格キャンペーンを開催

名刺プリンターアップグレードしました



50枚 = 950円



★ 解像度がアップ  
★ 写真も綺麗に  
★ 印刷範囲も広くなりまし  
た

100枚 = 2,000円のところ 5%引きで  
100枚 = 1,900円でお作りいただけます

50枚から承ります。初回の新規の版も今回は 400円です。

キャンペーン期間

4月17日(月)～5月末日まで

お問い合わせは TEL075-682-3201  
info@kyoto-j-works.com  
http://kyoto-j-works.com

特定非営利活動法人日本自立生活センターワークス共同作業所  
担当：門野（もんの）

「国賠訴訟を起こした人以外にも多くの被害者がいる。その人たちを救済するためにも情報開示は必要」と訴える香田さん(24日午後、大津市内)＝撮影・佐伯友章

滋賀県旧優生保護法情報公開請求訴訟裁判の判決が3月24日に出ました。一部開示が認められたものの、全面開示にはなりませんでした。

判決を不服として、滋賀県、京都新聞社どちらも上告しました。今度は大阪高裁での裁判が始まります。

情報開示は被害者救済の必要不可欠なものです。大阪高裁での裁判期日が決まったらお知らせします。

引き続き、ご協力お願いします。

香田



## 「自分該当と気付く人も」 「全国に広がる始まりに」

脳性まひがある香田晴子さん(61)は、京都市山科区の自宅から車いすで大津地裁に通い、第1回口頭弁論から2年5カ月及んだ裁判をほぼ欠かさず傍聴した。「開示された情報は被害救済の大事な資料。人としての権利を奪った過去を知り同じことを繰り返さないようにしてほしい」と強く願うからだ。

傍聴を続けたもう一つの動機に、40年前、自分の身に起きた出来事がある。高校時代、母親と行った手芸店で顔見知りの店主から「生理あるんか? 自分で

後始末できるんか?」と言われ、母親は「この子は大丈夫ですから」と答えた。なぜそんなことを聞くのか理解できなかったが、後年、「生理を止める」と説明を受けただけで手術を強いられた人がいると知る。強制不妊手術を巡る訴訟のニュースを見る中で、あの日の会話がよみがえり、「自分も手術されて被害者になつていたかもしれない」と恐ろしくなった。

「『生理の始末』ができない」を理由に手術を受けさせられた一人に、強制不妊の非人道性を終生訴え続けた広島県の故佐々木千津子さんがいる。講演録によると、香田さんと同じ脳性まひ者だった佐々木さんは20歳の時、「痛くもかゆくもない手術方法がある」とだけ言われて卵巣にコバルト照射する手術を受けた。放射線照射は、優生保護法でも認められていなかった

手術法だった。大阪地裁の審理では、幼少期に変形性関節症を患つて睾丸の摘出手術を受けさせられ、熊本地裁の国賠訴訟で勝訴した渡辺数美さん(78)が陳述書を提出した。「公文書がしっかり公開され、他の被害者がどのような経緯で手術されたのか明らかになれば、自分が被害者だと気付いて救済されることもあると思う」とし実態解明は被害救済と表裏一体であると強調した。

判決後の報告集会で弁護団が内容を説明すると、香田さんと共に裁判傍聴を続けてきた障害がある人の間で笑顔が広がった。香田さんは「障害者に対する性暴力を社会全体が主導し、正当化してきた。裁判で一部開示が認められたことで、全国で開示されるようになる。今日が終わりではなく、まだ始まりだ」と力を込めた。(飯島将太)

# 被害者と支援者救済期待